

2009 AUTUMN No.366

最新機材 アーティスト情報満載の鍵盤専門誌

Keyboards
magazine

3.6.9.12月発売 **Ritor Music**

DENKI GROOVE

Artist Story

ザ・ビートルズ

電気グルーヴ

Lock on to ACCESS Virus

全方位で迫る進化型シンセの実力

[付録CD連動企画]

Instruments 1

Instruments 2

すぐ分かる!

ステージ・キーボード活用術

Vintage Sound Gallery

HOHNER

Pianet/Clavinet Duo

Training

いつものプレイをリニューアル!
マンネリ演奏を
克服するための
Q&A

Contest

最強 リットーミュージック
プレイヤーズ
コンテスト2009
Guitar Bass Drums Keyboard SAX&BRASS

一次審査発表

Keyboard Score

「ゲット・バック」ザ・ビートルズ

「PLACE TO BE」

上原ひろみ

Live Report
& Pin-up

access

Interview

上原ひろみ

クレイジーケンバンド

POLYSICS

SOIL & "PIMP" SESSIONS

エディ・ジョブソン

SALT & SUGAR

RHODES

Rhodes Mark 7 73 S Series

◎山野楽器
☎03-3862-8151

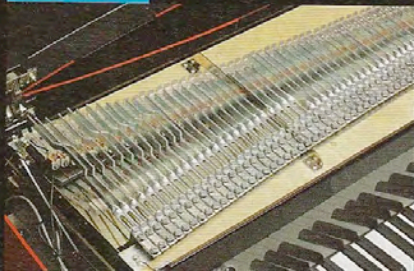
価格：682,500円

文：片桐久尚 / 撮影：八島崇

ビンテージ楽器として圧倒的な支持を得る
ローズが、アクション、機構、サウンドを
完ぺきに踏襲し、復活！

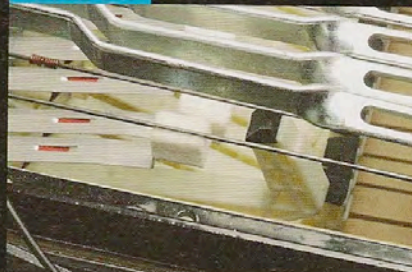


CLOSE UP!



トーン・ジェネレーターが生み出す“完全”なローズ・サウンド

CLOSE UP!



木製鍵盤による、ハンマー・アクションを装備。

CLOSE UP!



“S Series”に装備された、ボリューム、トーンのつまみ

本体の大幅な軽量化を実現**内部パーツは歴代モデル直系****赤、白、黒のカラーを用意**

時代の流れだったとは言えローズがその製造を止めたのが1984年……。それより四半世紀の時を経て今ここに復活の日を迎えた!

NAMM SHOW 2007にてその衝撃のニュース第一報が届いたのが今から2年前、それからが正直長かった。もしかしたら実現は不可能なのでは? 思わずそんな弱気な気分にもなりかけていた矢先のこと、編集部より製品レポートの連絡が! 思わず興奮の雄叫び(?)をあげてしまったのは言うまでもない。

本誌読者でローズを知らない方は少ないと思うので、ごく簡単に紹介しよう。そもそもハロルド・ローズ氏により、戦場の兵士たちへ音楽療法ツールとして開発されたのが始まりだということからその歴史は古い。その後、教育用小型電気ピアノなどの開発を経て、かのフェンダー・ローズへとつながっていく。

60年代中ごろから80年代初頭までがこの楽器の第一期大繁栄時代となる。このローズほど、栄枯盛衰を繰り返した楽器は少ないのではないだろうか? 本誌読者の中でも40代以上でない、ある程度実機と直にかかわった経験のある方は少ないかもしれない。

さて前置きはこのくらいにして、早速この新しいローズMark7の試奏レポートに移ろう!

Mark7の木製鍵盤の弾き心地はまさしくローズそのもの

まずはその外観だが、全体のあちらこちらに美しいカーブを取り入れ実に洗練された、まるでイタリアの高級モダン家具を連想させる洒落なデザインである。次に内部を見るためにカバーを開こうとすると、歴代モデルの着脱式ではなく、ちょうどノート・パソコンを開くようにトップ蓋が開くタイプになっていてノックから高得点ポイントとなった。実際、調律調整など、割と頻繁に内部に触る機会が多い楽器なので、このマイナー・チェンジは非常にうれしい。

マイナー・チェンジと言えば、例えばこの上部オープン時に必要となる本体裏のネジは、旧モデルの数多くのネジ頭が+ (プラス) 形状一辺倒だったのに対して、- (マイナス) 形状、多角形状など、適材適所にそれぞれベストと思われる形状へ変更されていたこと大変関心した。“なんだそんな地味なこと……”と思うなかれ、ローズを自分自身で手入れた経験のある方ならお気付きであろうが、かつての+形状ではネジ頭の潰れが多発し、途方に暮れるケースが実に多かったのだ。こういう部分

をしっかりとマイナー・チェンジしている事実、同社の丁寧な製品作りへの情熱、誠意を強く感じた。

内部をひと目見て即確信したのは、このMark7の設計は一般的に旧ローズ最終モデルと言われている“MarkV”を基本としているんだと言う点だ。数多くのマイナー・チェンジを繰り返して来た同社だが、一時期採用し不評だったプラスチック鍵盤や金属アクションの反省を踏まえ、かつ軽量化に初めて取り組んだのが“MarkV”であり、その“MarkV”がこの復活版“Mark7”の基本設計理念になっている点が非常に興味深い。実は発表年の2007年と昨年のNAMMを現地に行き実機をじっくり見て来た筆者友人H氏より“中身はもうMarkVそのものだ”との報告を受けており、今回自分のこの目で確認、確信することになったという経緯もあるのだ。

MarkIのステージ・タイプ73の重量がおよそ63.5kg (当時のカタログ参照)。初の軽量化に取り組んだMarkVが45.4kg。このMark7にいたっては何と驚きの39kg! MarkIのモデルより約40%減量には正直ビックリである。

さてその木製鍵盤での弾き心地、サウンドだが、ストロークの深さ、鍵盤の重さどれをとっても申し分なく、まさしくローズそのもの。それは弾いた瞬間に感じたことで、筆者の所有するデッドストックと同様の“新品”のサウンドがしたのである。今回試奏した73鍵のS Seriesには、EQやトレモロといった装備は付いていない。しかし、ボリュームのつまみを操作する、人カトレモロを試してみたところ、その揺れ具合からくるローズ独特の質感、包み込まれるようなサウンドは、やはり素晴らしいのひと言に尽きる。ぜひ、この新しいローズをばりばり弾きこなすミュージシャンが多く現れてほしいものだ。

また目で見ると、ありとあらゆる内部パーツ、トーン・ジェネレーターはもちろん、トーン・バー、グロメット、ハンマー・チップやピックアップなどなどにいたるまで、歴代の物とほとんど同じにしか見えない。そこであらかじめ用意してきた、筆者所有の76年製ローズより取り外したトーン・ジェネレーターの1鍵盤分を、Mark7の同鍵盤部分とそっくり交換してみたのだが、サイズはもちろん、その出音にいたるまで99%同等品であると断言していい結果であった。ゆえに、このMark7が完全なるローズとしての復活を意味するモデルであることが、確認できたわけだ。喜ばしくまたこの楽器の将来にとっても非常に有望である。

機能、鍵盤、カラー別に豊富なバリエーションを用意

今回チェックしたのは、シリーズの中でもっともシンプルな“S Series”の73鍵モデル。今までのステージ・モデルに該当する1ボリュームと1トーンを装備したタイプだ。トーンはパッシブ回

路、いわゆるエレキ・ギターと同じ物で、つまみ最大でバイパス、絞るに従い低域がカットされていく。このほかに、3バンドEQ、トレモロ、ステレオ・ヘッドフォン・アウトというスーツケース・モデルをほうふつさせる装備を備えた“A Series”。さらに“AM Series”と呼ばれる、MIDIアウト (あくまでもMIDIアウトのみであることにご注意!)、USB端子、モジュレーション、ピッチベンド・ホール、LCDディスプレイなど装備したタイプがある。正直実物に触るまで、一体どのようなものなのか分からないのだが、この3タイプがアナウンスされている。

この3タイプそれぞれに、61、73、88の鍵盤タイプと赤、白、黒のカラーが選べるようになっていく。注目するのは61鍵。かつてMarkIIがモデル・チェンジをした際、54鍵モデルが存在したのだが、この61鍵タイプは超最初期 (俗にいう幻のオレンジトップ) を除けば実質ローズ史上での初ラインナップと言っている。

また今回のMark7シリーズからスーツケース・モデルはなくなりオプションにより本体下部に設置するスピーカー・システムを加える形に変更になった。一体型の物と2つにステレオ・セパレートされたタイプがある。

すべてのモデルの本体仕上げには“Glossy”と“RoadTouch”の2種類から選べる。今回チェックのモデルは“Glossy”で非常に美しい艶出し仕上げだったが、名前から想像するに“RoadTouch”は恐らく艶消し風の渋い仕上げになっているのではないだろうか。

§

ローズで鍵盤楽器の取得を始めて以来30年以上この楽器に首尾一貫恋焦がれ続けている筆者が感じたMark7の感想はただひと言、“間違いなく本物のローズだ!”に尽きる。

この何から何まで簡単お手軽風潮の当世でよくぞこの素晴らしい本物の楽器を見事に復活再現させたものだと思正感動している。生産コスト1つとってみても、ちょっとやそっとではこのクオリティの製品は製造不可能だと安易に想像することができる。

レポートの最後を締めくくるにあたりこのローズMark7の復刻にかかわられた関係者の皆様方の御尽力に敬意を表すと共に、ローズを愛してやまない者の1人として心より感謝いたします。

SPECIFICATIONS

[S Series] ●鍵盤数: 61、73、88鍵 ●コントローラー: ボリューム、トーン ●カラー: レッド、ホワイト、ブラック ●外形寸法: [61鍵] 1,003 (W) × 210 (H) × 572 (D) mm、[73鍵] 1,168 (W) × 210 (H) × 584 (D) mm、[88鍵] 1,378 (W) × 210 (H) × 605 (D) mm ●重量: [61鍵] 34kg、[73鍵] 39kg、[88鍵] 47kg